



平成29年度「健幸しく」事業

コ・メディカルカフェ

～健やかで幸せな暮らしを考えるin四国～

医療・介護・福祉の現場×企業×イノベーター

ケアマネージャー・看護師・理学療法士など、＜医療介護福祉の現場＞で活動するコ・メディカルの方々と＜企業＞をつなぎ、みんなでこれからの未来を考える＜交流型ワークショップ＞を香川県をフィールドに実施。日頃、出会う機会の少ない異業種の多様な考え方や情報を相互交換することで、新たな＜気づき＞や＜発想＞を生みだし、現場の改善や新商品・新サービスの創出につながりうる機会を提供。課題先進地「四国」から「健やかで幸せな暮らし」を実現する社会を目指して、笑顔があふれる刺激的な交流が繰り広げられました。

第1回 **ケアマネージャー×企業**
(平成29年10月)

第2回 **看護師×企業**
(平成29年12月)

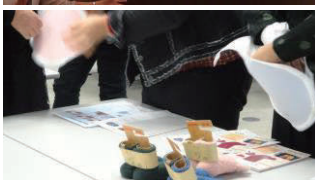
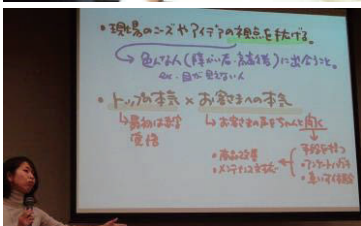
第3回 **理学療法士×企業**
(平成30年1月)

カフェの様子

●まずは、商品開発のリアルな話や既存概念にとらわれないイノベティブな取組について、第一線で活躍するゲストから話題提供。「ハッ」と視野が広がったところで、グループごとにワークショップ。「あったらいいな、こんなもの・こんなサービス」「困りごと」「ほしい(もの・こと)」「未来への期待感「10年・20年後の理想の未来」」を模造紙に書いてグループごとに発表。

●ゲストには、杖の代わりになるキャリーバッグや車椅子を開発する「(株)スワニー 代表取締役社長 板野司さん」、転倒しにくいリハビリ靴・介護靴を開発する「徳武産業(株) 取締役会長 十河孝男さん」のほか、毎回、障害者関連事業の世界観を刷新した「SLOW LABEL ディレクター 栗栖良依さん」をお招きしました。

●終了後も閉場まで自由に交流タイム。参加企業の製品やパンフレットも見ながら、あちこちで意見交換が続いていました。障害者や高齢者雇用を促進する地域の事業者さんにご用意いただいたお茶やお菓子が、リラックスした空気感を生み出す潤滑油にもなっていたようです。



参加者の声 (アンケートより)

●企業

・メーカー、一業界にいると考えが凝り固まりがちですが、実現可能かどうかは後で考えるとして、**広い視野で斬新な発想を他業種や現場の方から学び、大変刺激になりました。**
 ・現場の方の困りごとは、非常に多いと感じた。**限られた時間の中でも様々な話を聞いたことが良かった。**
 ・看護師の方々が普段から感じている困りごとから**新規事業アイデアのヒント**を得られた。
 ・異業種連携、具体的ニーズ収集の場として最適であり、今後とも継続されると商品化も期待できるのではと思った。**若手の育成プログラムにも有効かと思われる。**

●コ・メディカル

・**普段の業務では接することのない、ものづくり第一線の方と話をすることができ刺激になった。日常の苦労話に耳を傾けていただき、そこから新しい商品が開発されるとしたら夢のようである。**
 ・**結論を急がず出会えたことは有意義だったと思います。**
 ・**色々な視点で物事を見る機会になりました。志を持ってものづくりをしている方の力になれることがあればお手伝いしたいと思います。**
 ・知らないことが多くて楽しかった。やはり、企業の方との交流はとて素晴らしいなあと思いました。**企業の人がかかることで、日々困っていることも案外、容易に解決できるのではないか**と思った。
 ・今までにない**ものづくりにふれることでリハビリの可能性を広げることができると感じた。企業と医療現場の交流の場をもっと増やしてほしいです。**

栗栖 良依さんの話題提供より

障害者とアーティストによる<モノづくり>に始まり、パフォーマンス・アート、地域づくりなどの<コトづくり>に展開。現在は「ソーシャルサーカス」にも、人の心と体を元気にする可能性を見いだそうとしています。

● 障害者×アーティストの可能性

「アーティストは非常に独特な感性がある。福祉の専門家や施設の職員、家族でも見過ごしてしまうような個人の特性に気づき、そこから生まれる副産物を見いだすことができるんです」。社会復帰に手がけた『横浜ランデヴープロジェクト』では「障害者とアーティストで面白いものがつくれないか」と実験的なモノづくりを始めたところ、多様なプロダクトが生まれ『SLOW LABEL』を設立しブランド化。

● 「SLOW LABEL」スローにつくる、という意味だけではない

「大量生産・大量消費の世の中ですが、人口は減少し、コンパクトなまちづくりが目指されるようになってきました。ものづくりもコンパクトになる時代になるのではないかと考えるようになり、障害のある方が良いパートナーになるのではないかと。また、物質的な豊かさから精神的な豊かさに移行するなど、大量生産では実現できない、自由で新しいものがそこから生まれて欲しい・・・そんな期待を込めています」

● 「SLOW FACTORY」市民参加型ものづくり

「施設内でものを作り百貨店等で売る」というスタイルに限界を感じた栗栖さんは、横浜みなとみらいにある「象の鼻テラス」を年に1回、工場にし、障害者だけでなく一般の方も参加して一緒にものづくりをする状況を生み出しました。「例えば、ものづくりに誰でも参加できるように、大きな円形のタペストリーを作る道具をアーティストが開発。もはや現場では誰に障害があるのかさえわかりません。障害の有無ではなく、みんなで一緒に一つのことを目指すことで、何に貢献できるか、何が得意なのかという発想が変わっていきました」。「ものづくりから始まった活動でしたが、障害のある人となない人が出会う機会をつくることを通して、一人一人の社会での居場所や役割を実感してもらえるプロジェクトに価値があると再認識できました」。



● アクセスコーディネーター／アカンパニスト



パフォーマンス・アートの推進には障害者が参加しやすい環境整備が必要となり、障害者の物理的・心理的バリアを取り除く「アクセスコーディネーター」や舞台上でサポートする「アカンパニスト（伴奏者）」といったサポーターの育成にも取り組んでおり、看護師や理学療法士らも参加。

SLOW LABEL ディレクター

栗栖 良依



足に障害を持ちながら、既存概念にとわられず、異分野を掛け合わせ、<モノづくり>から<コトづくり>にいたるまで、新しい世界観・ムーブメントを巻き起こすイノベーター

東京都生まれ。7歳より創作ダンスを始める。高校生の時にリレハンメルオリンピックの開会式に感銘を受け、卒業後は東京造形大学に進学。在学中から大手イベント会社に所属し、スポーツの国際大会や各種文化イベントで運営や舞台制作の実務を学ぶ。

2006～07年、イタリアのドムスアカデミーに留学、ビジネスデザイン修士号取得。帰国後、東京とミラノを拠点に世界各地を旅しながら、各分野の専門家や地域を繋げ、商品やイベント、市民参加型エンターテインメント作品のプロデュースを手掛ける。

2010年、骨肉腫を発病し右下肢機能全廃。翌年、右脚に障害を抱えながら社会復帰を果たし、国内外で活躍するアーティストと障害者をつなげた市民参加型ものづくり「スローレーベル」を設立。「モノづくり」のみならず、パフォーマンス、地域づくり等「モノづくり」から「コトづくり」に至るまで事業を展開し、障害者関連事業の世界観を刷新。

2014年、2017年「ヨコハマ・パトリエンナーレ」総合ディレクターを務める。

徳島県



藍染の商品開発・販売を行う「SLOW LABEL徳島」を立ち上げ、徳島県神山町には「スロー百貨店」を開店。「障害者施設の取組は最終的に商品としてのデザイン力や流通が弱いことが多い。デザイン・流通・ものづくりが得意な人が出会うショールーム機能が必要だと考えました」。

熊本県



フードデザイナーをはじめ空間や器のデザイナーを投入し、ジェラートや器も開発。障害者の新しい職場をつくる実験として始めた「SLOW GELATO」。

「専門分野を持たないことが専門です。異なる専門分野や地域、企業、個人をつなげて新しい価値を生み出すことをやっています。組む相手によってアウトプットが<モノ>になったり<コト>になったり、旅の企画になることもあります・・・」栗栖さんの自己紹介、ここに「健幸しこく」、「健やかで幸せな暮らし」を実現していくためのヒントが詰まっているのではないのでしょうか？

世界最高水準の高齢化率にある日本、答えは一つではないでしょう。四国らしさって、なんだろう？ 試行錯誤しながら、明るい未来に向かって、みんなで一緒にチャレンジしていきましょう。